

本田中後期のトビイロウンカに対するジノテフラン剤の防除効果					
[要約] <u>ジノテフラン</u> を含有する薬剤（商品名：アプロードスタークルゾル、スタークル顆粒水溶剤）は、 <u>本田中後期のトビイロウンカ</u> に対して防除効果を示す。					
佐賀県農業試験研究センター 有機・環境農業部・病害虫農薬研究担当			連絡先	0952-45-8808 nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp	
部会名	作物	専門	病害虫	対象	水 稲

### [背景・ねらい]

2013年、本県の水稲においてトビイロウンカが多発した。多発要因の一つに、本田中後期の防除薬剤として長年利用されてきたブプロフェジン剤に対する感受性の低下が挙げられることから、新規薬剤であるジノテフラン・ブプロフェジン水和剤、ジノテフラン水溶剤等の防除効果を明らかにする。

### [成果の内容]

1. ブプロフェジン水和剤（商品名：アプロードフロアブル）は、トビイロウンカの密度を抑制するが、防除効果が低い（表1、2）。
2. ジノテフラン水溶剤（商品名：スタークル顆粒水溶剤）は、ブプロフェジン水和剤に比べ本虫の密度を低く抑えるものの、散布後7日目以降密度が高まり、残効期間が短い（表1）。
3. ジノテフラン・ブプロフェジン水和剤（商品名：アプロードスタークルゾル）は、トビイロウンカの寄生密度をブプロフェジン水和剤より長期間低く抑制し、防除効果が高い。（表2）。

### [成果の活用面・留意点]

1. 県内の水稲栽培に適用できる。
2. 本田中後期におけるトビイロウンカの防除には、ジノテフラン・ブプロフェジン水和剤を利用し、ブプロフェジン剤の単用は行わない。
3. 本田防除は、佐賀県農業技術防除センターが発信するトビイロウンカ発生予想パターンを参考に適期に実施する。
4. 移植時の箱施薬はピメトロジン含有する粒剤（商品名：チェス粒剤等）を処理する。フィプロニル含有の粒剤（商品名：プリンス粒剤等）を処理する場合はセジロウンカ対策としてイミダクロプリド顆粒水和剤（商品名：アドマイヤー顆粒水和剤）を灌注処理する。
5. ジノテフラン剤にブプロフェジン剤加用の必要性は明らかではないので、今後検討する。

[具体的なデータ]

表1 本田後期のトビイロウンカに対する各種薬剤の防除効果(2013 多発生)<sup>a)</sup>

供試薬剤 (供試倍数)	反復	1株当たりの成幼虫数				薬害
		9/11 散布直前	9/13 散布後 2日目	9/18 同7日目	9/25 同14日目	
ジノテフラン 水溶剤 (スタークル 顆粒水溶剤) (2,000倍)	1	14.0	4.4	0.3	22.2	-
	2	5.9	10.4	0.6	18.6	
	平均	10.0	7.4	0.5	20.4	
	補正密度 指数		13.8	0.6	25.0	
プロフェジン 水和剤 (アプロードフロアブル) (1,000倍)	1	7.9	16.8	28.0	36.2	-
	2	8.0	11.6	42.0	71.2	
	平均	8.0	14.2	35.0	53.7	
	補正密度 指数		33.2	60.7	82.7	
無処理	1	11.9	60.3	67.1	60.3	-
	2	4.3	26.6	50.1	71.6	
	平均	8.1	43.5	58.6	66.0	

a)試験場所:佐賀市川副町 佐賀県農業試験研究センター圃場。耕種概要:供試品種「さがびより」、移植時期:6月20日、出穂時期:9月2日。区制・面積:1区2反復、30m<sup>2</sup>/区。薬剤防除:移植時防除:なし、本田防除(6月20日飛来 飛来後第3世代幼虫孵化時期):9月11日に背負い式動力噴霧器で各区に150リットル/10a相当を散布、展着剤は無加用。調査:20株調査/反復、虫数:2反復の平均値。補正密度指数:試験開始前における害虫の発生量は各区で異なるので、そのバラツキを抑えるために、無処理区と各処理区の平均値より算出された値。値が0に近いほど効果は高い。補正密度指数=(処理区の散布N日後虫数/処理区の散布前虫数)×(無処理区の散布前虫数/無処理区の散布N日後虫数)×100

表2 本田中期のトビイロウンカに対する各種薬剤の防除効果(2014 中発生)<sup>a)</sup>

供試薬剤 (希釈倍数)	反復	1株当たりの成幼虫数の推移					薬害
		8/27 散布直前	9/1 散布後 5日目	9/5 同9日目	9/11 同15日目	9/25 同29日目	
ジノテフラン・ プロフェジン水和剤 (アプロードスタークルゾル) (1,000倍)	1	4.9	1.2	1.3	0.1	3.2	-
	2	1.8	1.2	0.8	0.2	1.6	
	平均	3.4	1.2	1.1	0.2	2.4	
	補正密度 指数		6.1	5.5	2.3	13.8	
プロフェジン 水和剤 (アプロードフロアブル) (1,000倍)	1	3.5	14.2	8.7	2.2	8.4	-
	2	3.8	10.7	4.8	2.3	6.8	
	平均	3.7	12.5	6.8	2.3	7.6	
	補正密度 指数		57.9	32.6	32.3	40.1	
無処理	1	2.4	14.7	13.3	4.9	14.2	-
	2	3.2	18.3	18.5	5.8	14.9	
	平均	2.8	16.5	15.9	5.4	14.6	

a)試験場所:佐賀市川副町 佐賀県農業試験研究センター圃場。耕種概要:供試品種「さがびより」、移植時期:6月19日、出穂時期:9月3日。区制・面積:1区2反復、120m<sup>2</sup>/区。薬剤防除:移植時防除:移植当日にDr.オリゼフェルテラグレートタム粒剤を処理、本田防除(7月14日飛来 飛来後第2世代幼虫孵化時期):8月27日に動力噴霧器で各区に150リットル/10a相当を散布、展着剤は無加用。調査:30株調査/反復、虫数:2反復の平均値。

[その他]

研究課題名:新殺虫・殺菌剤適応性試験

予算区分:受託

研究期間:2013年度～

研究担当者:衛藤友紀、稲田 稔